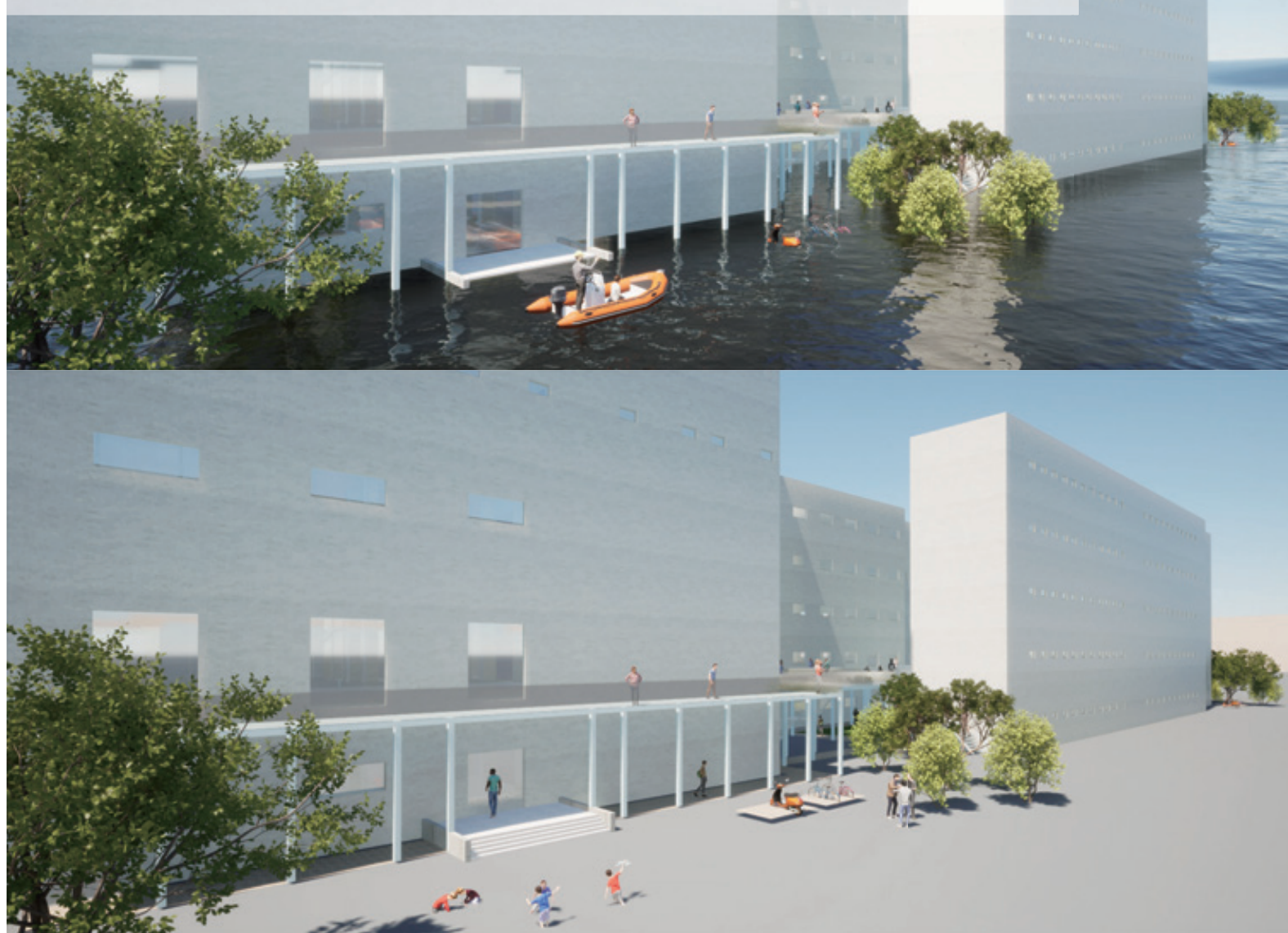


つながって暮らす、つながって逃げる

— 共助を軸に災害に備える団地再生計画 —

(設計) 村上研究室 A24AB503 篠原里織

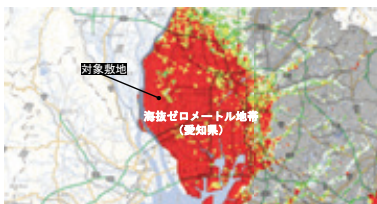


01. 背景

1-1：海抜ゼロメートル地帯について

日本には、海抜ゼロメートル地帯が広範囲に存在する。愛知県西部は、日本でも特にその面積が大きい地域である。この地域では、集中豪雨による内水氾濫や河川氾濫、地震時の液状化など、複合的な災害リスクが想定されている。

➡ 従来の防災対策は非常時に偏り、日常生活との連続性が乏しいため、実際の災害時に十分機能しない恐れがある。



1-2：住宅団地が抱える高齢化・老朽化課題

住宅団地では、築40年以上の建物の老朽化や居住者の高齢化が進行している。これにより、災害時における自助能力の低下が課題となっている。



02. 目的

老朽化と高齢化が進む住宅団地における防災脆弱性を課題とし、共助を軸に、災害時にも対応可能な居住環境のあり方を検討する。

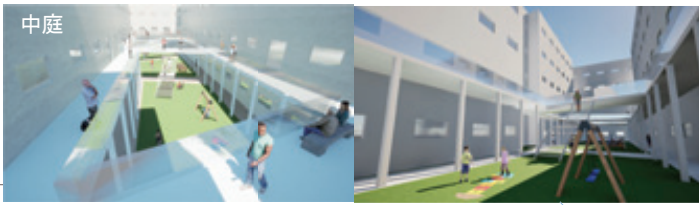
03. 用語の定義

防災：災害被害を最小限に抑えるための備えや対策を指す。

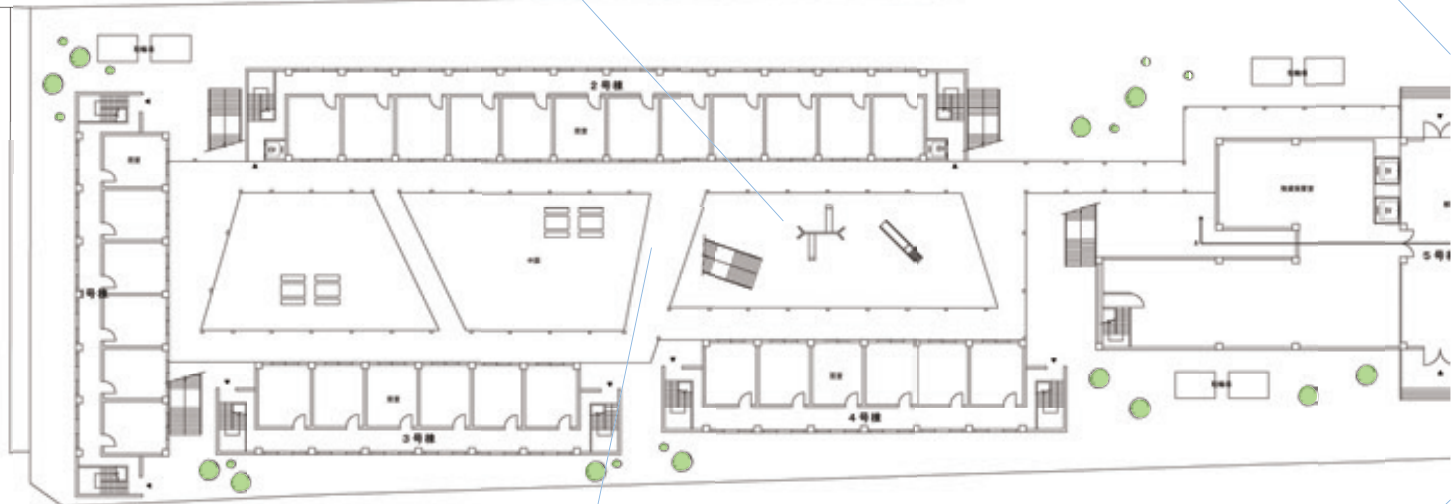
災害：水害および地震を対象とする。

共助：団地内において住民同士が支え合う関係性が空間の使われ方として表れることを指す。

中庭



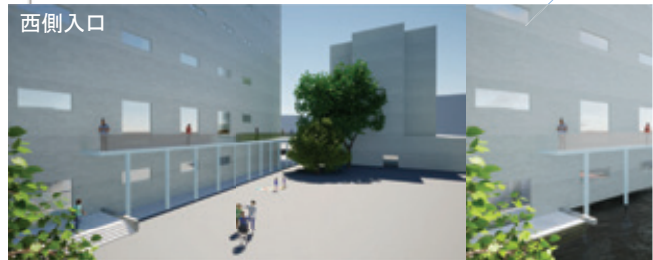
ラウンジ



コリドール下



西側入口



飲食スペース



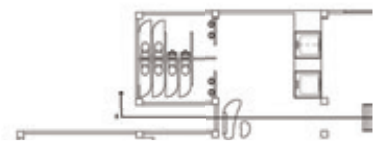
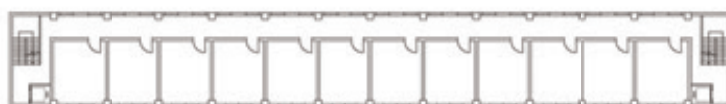
2-3F 階段



調理室



非常時：炊き出し場



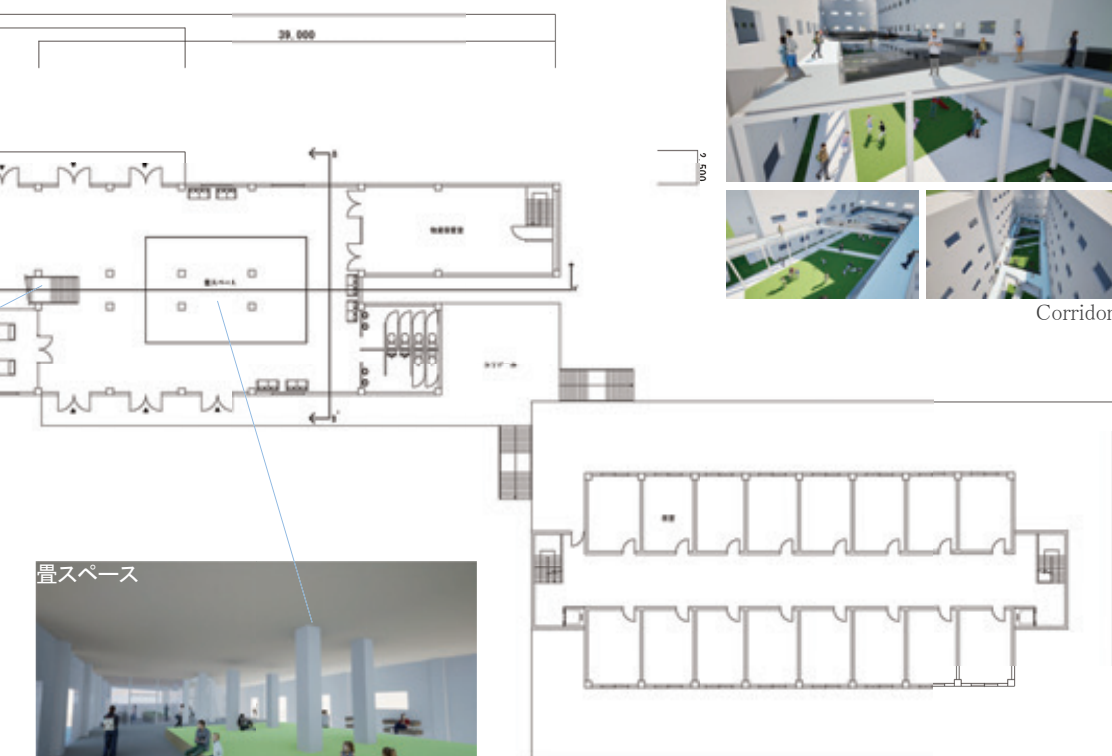
東側入口



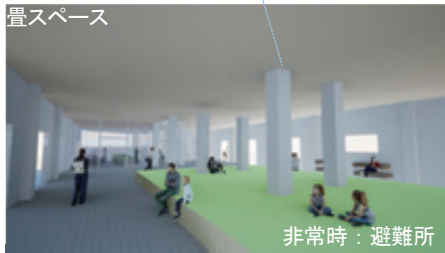
駐車場



配置図兼1階平面図 1/200



畳スペース



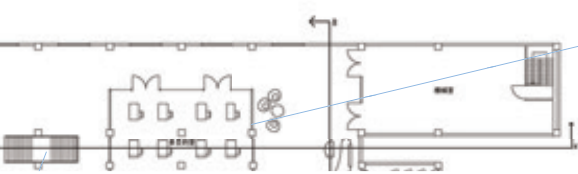
非常時：避難所



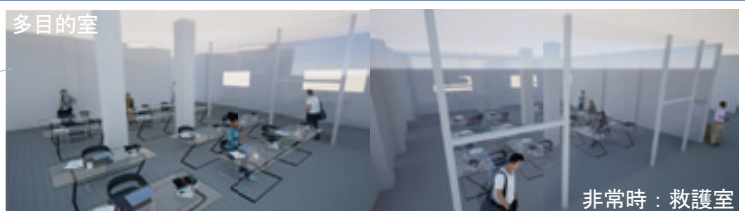
Corridor



2階平面図 1/200



多目的室



非常時：救護室

04. 設計条件の整理

4-1：対象敷地

愛知県津島市藤浪町

UR都市機構 津島団地（全431戸 / 築56年）

海抜ゼロメートル地帯に立地



4-2：敷地分析

【想定される災害】

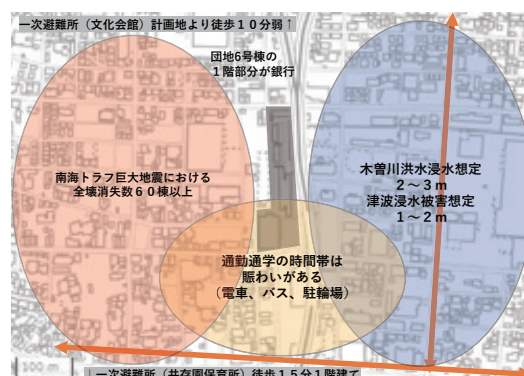
- ・最大浸水深 約 3.0m
- ・震度 6 弱～6 強
- ・液状化の危険性が高い

【現状の課題】

- ・共用機能が1階に集中
- ・水害時に機能停止の恐れ

【必要な視点】

- ・浸水を回避しながら 団地全体をつなぐ 空間構成

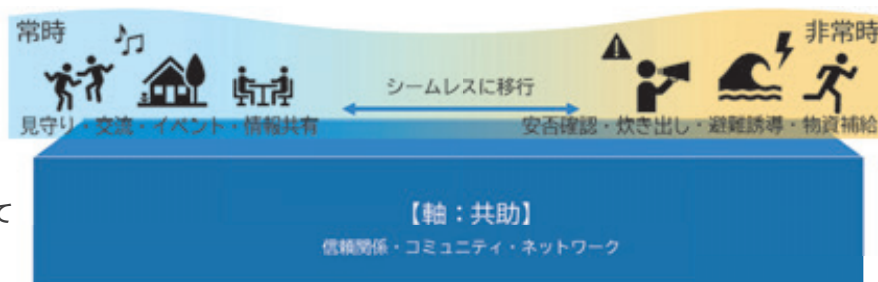


05. 設計提案

5-1：コンセプト

「つながって暮らす、繋がって逃げる」

日常で使われる空間がそのまま非常時にも機能。特別な判断や行動を必要としない日常の延長として「避難」「支援」が行われる団地を計画する。



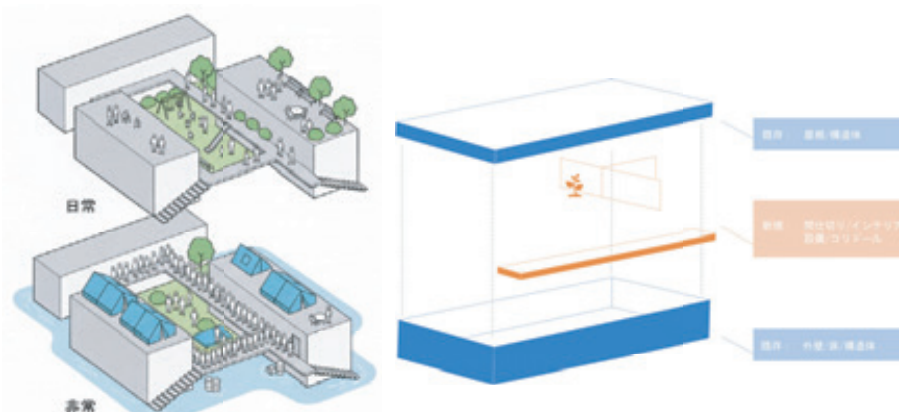
5-2：コリドールによる団地再編

2階レベルにコリドールを計画

→住棟を横断的につなぐ共用動線

日常時： 移動・交流の場

非常時： 浸水を回避した避難動線



コリドールの使われ方

既存 + 新規の整理

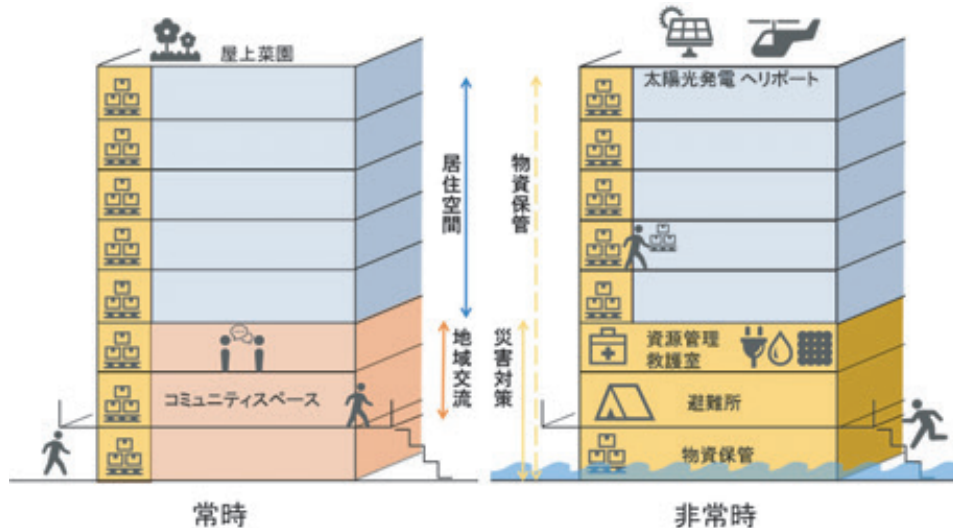
5-3：5号棟を中心とした拠点形成

団地中央に位置する5号棟を再編

→日常と非常をつなぐ核となる建物

日常時： 集会・交流の拠点

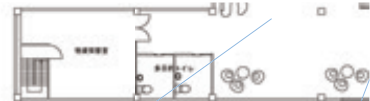
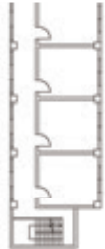
非常時： 情報共有・一時滞在の拠点



常時

非常時

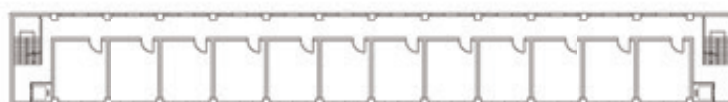
5号棟の使われ方



3F ラウンジ



2-3F 開口部



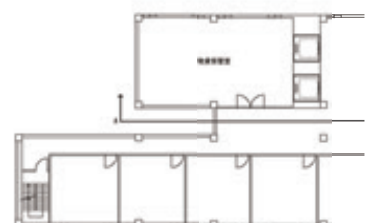
2号棟



3号棟



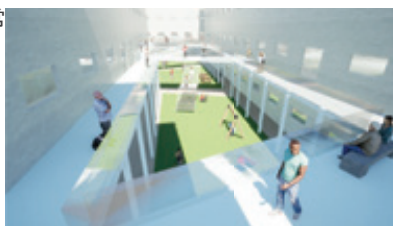
4号棟



非常



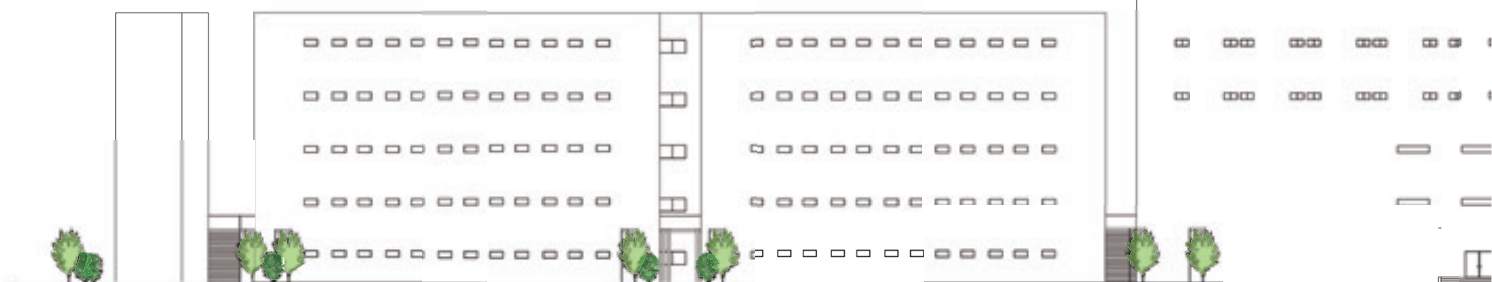
日常

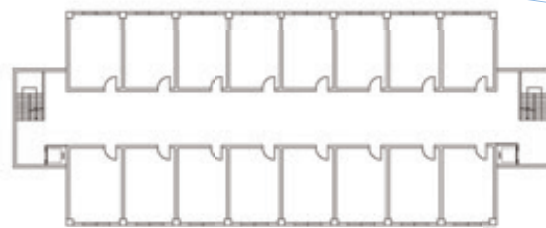
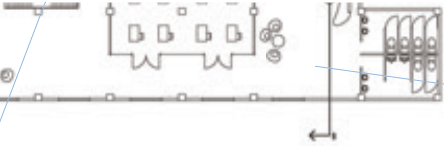


東側立面

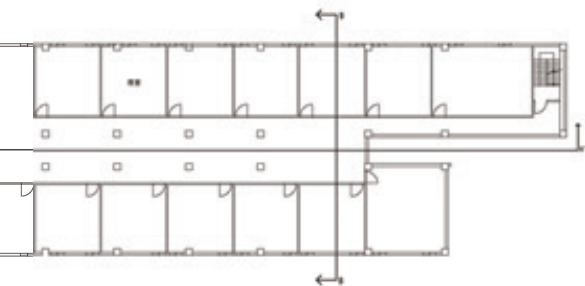


西側立面

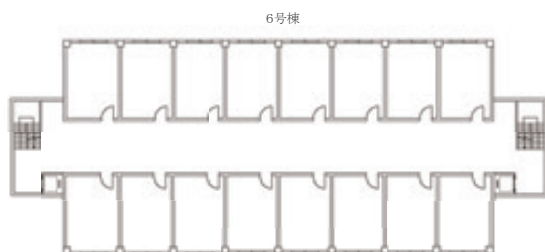




3階平面図 1/200

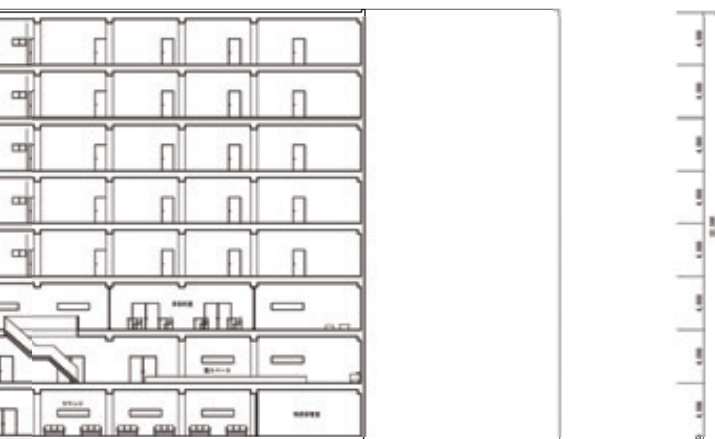


5号棟



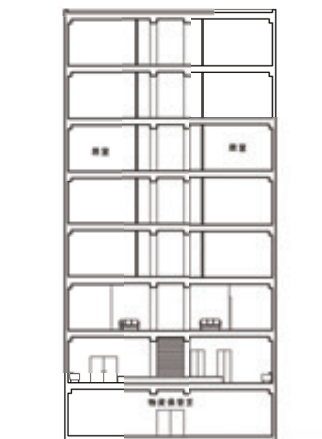
6号棟

〈1.2.3.4.6号棟〉 3-5階平面図 1/200
〈5号棟〉 3-8階平面図 1/200



10,000

A-A' 断面図 1/200



B-B' 断面図 1/200



10,000

西側立面図 1/200

